

2. 次の文章を読みやすく直してください。

耐震補強工事での不具合は、既設コンクリートにアンカーボルトを取り付ける削孔の際に、既設鉄筋に干渉した場合にはアンカーボルトの定着長が不足し、既設鉄筋の干渉に気づかず削孔を続けた場合には、鉄筋切断となる。アンカーボルトの確実な施工は、耐震補強では不可欠であり対応としては、削孔時のコアが定着長分確保されているか出来高を全数管理し、既設鉄筋事故防止は、コアマシンに電流センサーを取り付け、既設鉄筋干渉時の漏電を確認するなどの方法がある。(216字)

【ポイント】短文を目指すこと。箇条書き。

解答例

耐震補強工事では、アンカーボルト施工時に次のような不具合が発生しやすい。

- (1) 削孔時に、既設鉄筋に干渉するとアンカーボルトの定着長が不足する。
- (2) 既設鉄筋の干渉に気づかず削孔を続けると、既設鉄筋を切断する。

アンカーボルトの確実な施工は、耐震補強では不可欠であり、上記のそれぞれに対して次の対応がある。

- (1) 削孔時のコアが定着長分確保されているか出来高を全数管理する。
- (2) コアマシンに電流センサーを取り付け、既設鉄筋干渉時の漏電を察知する。

(221字)